

	世田谷区立砧中学校 校長室だより 令和5年 2月13日 第 55 号 校長 大坂 崇		教育目標 「豊かな人間性の育成」 ◎ 集団生活における責任感と自主性を養う ◎ 健康な心身の育成と勤労の喜びを培う ◎ 基礎学力の充実を図り深く考える姿勢を育てる	
	社会性の学び		知的な学び	心と体の学び
	自他の尊重 地域貢献		主体的な学び 学習の定着	心身の健康

## 「問い」の力（2）

## 「良問」（良い問い）

### 1 問い方の4原則

#### ① シンプル

一番大切なことが明確なら、問いは短くなり、内容も焦点化される。

##### 『核心に迫る端的な問い』

例×「授業のプリントがわかりにくいから、もっと整理した方がいいのでは？、でも〇〇の部分は大事だからどう整理する？」

◎「そもそも一番大事なことは何か？」

#### ② ノージャッジ

判断のある問いは客観性を失う。思い込みや誘導・非難につながり、核心を見失う。

##### 『客観的に核心を突く問い』

例×「いつも時間がかかっているのは、時間の管理ができていないからじゃない？、だからうまくいかないんじゃない」

◎「一番気になっているのは？」「本当はどうしたい？」

#### ③ ポジティブ

ネガティブな問いは次の行動や思考を制限・停止させる。

##### 『行動や思考の変容に迫る問い』

例×「どうしてこの実験はうまくいかないのだろう？」  
「成績が悪かった、どこがいけなかったのだろう？」

◎「どうすればこの実験はうまくいくだろう？」

「成績を上げるには何をすればいいだろう？」

#### ④ ハイビジョン

今の立場でなく、より高い立場で考える事で、判断の幅が広がる。

##### 『広い視野で正しい判断を導く問い』

例×「そのことで生徒が混乱するのは嫌だよな？」

○「どうして生徒が混乱すると言うのだろう？」

◎「一時的混乱より生徒の成長が大切と感じていないのではないか？」

### 2 問いの方向性の4原則

#### ① 核心を突く ⇒ 根本は何か？

Where : 「どこに問題があるのか？」

Why : 「なぜそうなっているのか？」

How : 「どうするのがいいか？」

の順序で問う（最初に How を問わない）

#### ③ 枠を広げる ⇒ どうすればできるか？

「本当にそうなのか？」

「これもありなのでは？」

（ニュートラルな視点から、前提を疑い、問う）

#### ② 未来志向 ⇒ どんな状態が理想か？

「なりたい状態になるために、今どうするのがいいか？」

（なりたい状況になる力がある、というポジティブな考え方が前提にある）

#### ④ 触発する ⇒ 何が一番大事か？

「そもそも自分(あなた)にとって・・・？」

（思い込み・信念を覆す＝インスパイア）

\*状況に応じて「表出している言動」「信念体系」「感情の出来事」のいずれかを問う

### 3 偽物の問い・・・「問い」に見えて「問い」でないもの

例：「AとB、どちらの英会話教室に通ったらいい？」⇒これだけでは答の出しようがない  
この偽物の問いは、次のような根本的な問いが必要  
「なぜ英語を話したいのか」「今のレベルはどの位か」「本当に英会話が必要か」